

2021年度 聖ドミニコ学園中学校

入学試験（第3回）

# 思考力

60分

◎次の注意事項<sup>じこう</sup>を読んでください。

- 1 試験開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 2 問題は全部で3ページあります。解答用紙は2枚です。
- 3 解答用紙2枚ともに受験番号と氏名を書いてください。
- 4 答えはすべて解答用紙に書いてください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

時は西暦<sup>せいれき</sup>2121年。地球から遠く離れた惑星<sup>はな</sup>ルリジオンにルリジオン人が存在することが確認されて、ついに100年。地球人が惑星<sup>わくせい</sup>ルリジオンで、ルリジオン人が地球で生活できる発明品がそれぞれ完成し、ようやく地球とルリジオンの交流もさかんになってきました。その交流プロジェクトの一つとして、ルリジオンと地球の3か月間の交換<sup>こうかん</sup>留学システムが導入されました。

13歳<sup>さい</sup>の女の子のシアの通う中学校にも、ルリジオンからの留学生がやってくることになりました。シアはルリジオンの友達ができることを、とても楽しみにしていました。

ついにルリジオン人の留学初日です。担任の先生<sup>しょうかい</sup>の紹介で入ってきたのは、明るそうな女の子でした。名前は日本語では、ニジェサークというらしいです。ニジェサークはシアのとなりの席になりました。シアはさっそくニジェサークに話しかけました。

2人はすぐに仲良くなり、一緒に帰る仲になりました。

「ルリジオン人は地球人と見た目が違うからびっくりされたらどうしようかと思っちゃった、私たち<sup>しよつかく</sup>触角も生えているし」

「ううん、全然気にならないよ。私たちは同じ宇宙人だし。ニジェサークから見たら私たちの方が変な見た目でしょ？」

「ハハハ、まあそうね」

2人はとてもなごやかな様子です。

「ねーねー、ルリジオンってどんな星なの？」

シアはニジェサークに星の様子をたずねます。

「ルリジオンはね、とても大きい。地球の5倍くらい大きいんじゃないかしら。だから移動するための手段がとても発達しているの。あとはそうだな、気温の変化が激しいんだよ。基本的には暑い星なんだけど、暑い時期には気温が50度、寒い時期にはマイナス20度まで下がるんだよ。だから、私からすると地球はちょっと寒いかな」

「えー、そうなんだ。じゃあ旅行に行く時はたいへんだなあ」

シアは地球とは全然違った環境<sup>かんきょう</sup>に興味津々です。さらにたずねます。

「あとさ、ルリジオンにはどんな動物がいたり、植物が生えてたりするの？」

「動物はね、星に10頭の超巨大な羊みたいな動物がいて、その動物にくっついていたり生えてたりする植物の実とかを食べてるよ。あとその動物の毛を刈<sup>か</sup>っている色々な物に役立ててるよ。だからその動物の毛を取りやすくするためにルリジオン人は進化していったみたい」

「へー、おもしろいね！ 地球とは全然違うんだ！」

ニジェサークもうれしくなってどんどん教えてくれます。

「うん、他にもね、地球に比べると雨の日が多いんだ。1年の3分の2くらいは雨の日だから雨への対策も発達しているよ。あ、ルリジオンの雨は地球人には毒なんだよね。あとは一、地球より夜が短いかな」

「え！　じゃあ、いつ寝てるの？」

「ん？　夜の間だけだよ。2時間くらい！」

「えー！！　信じられない！　私だったら耐えられないよー！！」

スアはおどろきが隠せませんでした。

「ハハハ、そんなことないよー。慣れれば大丈夫だって！　あ、あとね、ルリジオン人の触角には特殊能力があるのよ」

「うわ！　すごいよ、ニジェサーク！　その能力はルリジオンではどんなことに使われているの？」

「うん、いろんなところで役に立ってるよー！」

ニジェサークは丁寧に教えてくれました。

それから3か月が経ちました。スアとニジェサークはその間に、一緒に遊びに行ったり、クラブ活動をしたりとその他にもさまざまな体験をしました。しかし、それももう終わりに近づいてきました。

スアはニジェサークにこの3か月間のことをたずねました。

「ニジェサーク、どう？　地球に来て3か月经ったけど、どんなことがあった？」

「そうね、いいこともあったし、少し困ったこともあったよ」

「え、そうなの？　どんなことか聞いてもいい？」

「うん、こんなことがあったよ」

ニジェサークは話してくれました。スアは真剣に話を聞きました。

「……そっか。たいへんなこともあったね」

「うん、でもね私、地球に来て本当によかったと思ってるよ。スアに会えたこともそうだし、他のお友達にもね。ルリジオンにいただけじゃできなかったこととかたくさん経験できて本当によかった。私の宇宙が広がった気がする。スアもさ、いつかルリジオンに来てね」

ニジェサークは思っていることを正直に話しました。スアも感極まってきました。

「うん、すぐに行く！　絶対に行く！　ありがとう、ニジェサーク」

スアは来年自分もルリジオンに行くことを強く決意しました。そして、スアはこんな風に自分とニジェサークをつなぎ合わせてくれた100年前の発明家たちにお礼を言いたい気持ちがわき上がってきました。

問1 ニジェサークの姿について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 惑星ルリジオンの環境や様子をふまえて、あなたの想像するニジェサークを絵に描きなさい。ただし、絵の技術的な評価は行いません。
- (2) (1)でなぜそのような姿を想像したのかを分かりやすく説明しなさい。また絵だけでは表現できなかったことも説明してかまいません。

問2 ニジェサークの特殊能力について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) ニジェサークに生えている触角にはどのような特殊能力が備わっているか、2つ考えて、解答用紙の①・②にそれぞれ「～能力。」につながる形で答えなさい。
- (2) (1)の①・②で考えた特殊能力は惑星ルリジオンではどのような時や場合に使われているのか、それぞれ考えて答えなさい。

問3 2021年に生きるあなたは、未来の地球人が惑星ルリジオンでも快適に生活ができるようになるための道具を発明するチームの一員となりました。これをふまえて次の(1)～(4)に答えなさい。

- (1) あなたが惑星ルリジオンに行った場合、どのようなことが起きると思いますか。想像できることを、5つ解答用紙の①～⑤に書きなさい。
- (2) (1)で想像したことを「役立つ・良いこと」「困る・悪いこと」「どちらでもないこと」のどれに当てはまるかを分類して、①～⑤の番号を書きなさい。
- (3) あなたならどのような道具を発明するか、その道具の絵を簡単に描きなさい。ただし、絵の技術的な評価は行いません。
- (4) (3)で発明した道具の使い方やどのような効果があるのか、なぜそれが必要なのかという理由などもふくめて400字以上600字以内で説明しなさい。